

# 鏡川流域パートナーシップだより No.94 R5.10.18



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

## 「かがみがわフェスタ」のキックオフイベント「川と山と」を開催しました！

鏡川流域関係人口講座の第3期では、鏡川流域の地域資源を生かした「遊び」と「学び」の機会である「かがみがわフェスタ」を開催しています。

10月16日(月)には、「かがみがわフェスタ」のキックオフイベントを開催し、ゲスト講師の吉富慎作さん(NPO法人土佐山アカデミー 事務局長)と、長野県松本市を中心に全国の山仕事を請け負う秋本真宏さん(株式会社山屋 代表取締役)をお招きして、川や山への関わり方などをテーマとしたトークセッションを行いました。会場は高知市帯屋町のコミュニティスペース「Commuba」にて、現地とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。



「かがみがわフェスタ」の詳細はこちら



「山が大好き！」という思いで多種多様な山仕事に携わり、株式会社 山屋を創業した秋本さんのお話は、関係人口創出には、関わっている人の「好き」「楽しい」という素直な気持ちが重要だと改めて感じる内容でした。

また、吉富さんが土佐山地域(鏡川上流域)で行っている研修プログラムなどは、地域にあるものを「面白い」ことで地域課題を魅力と捉え、地域内外の多様な人の「関わってみたい」という気持ちを喚起するものであり、鏡川流域への多様な人の参画を促すためのアイデアを参加者の皆さんに考えてもらうきっかけになりました。



秋本さんは、高知入り後すぐに、土佐山地域を実際に訪れました。大穴峡や菖蒲洞などの自然に触れ、地域の人と交流しながら、鏡川流域の雰囲気を感じたそうです。

「山、川、人の暮らしが集約されている、とても素敵な地域だと思いました！」と、土佐山地域のことを笑顔で語ってくれた秋山さんのお話を聞き、鏡川流域の魅力をより感じることができました！



イベントの最後に、参加者の皆さんに「かがみがわフェスタ」のオリジナルステッカーをお配りしました！

高知市新エネルギー・環境政策課の窓口にも置いています。鏡川流域でプログラムを企画したり、参加したり、サポートしてくださった方にプレゼントします。気になる！ほしい！と思った方はぜひお声がけください(^ ^)



「かがみがわフェスタ」は始まったばかりです！これから鏡川流域で楽しい体験プログラムが展開されていきます。ぜひオリジナルの企画をエントリーしたり、企画に参加したりして、鏡川流域の自然を楽しみましょう！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android